

Y03a ひので衛星と高校・公開天文台・科学館との太陽共同観測 (2)

矢治健太郎 (立教大学)、時政典孝 (西はりま天文台公園)、鈴木大輔 (川口市立科学館)、坂江隆志 (埼玉県立浦和西高校)、坂本大介 (滋賀県立米原高校)、山田晃平 (大阪府立岸和田高等学校)

太陽観測衛星「ひので」の観測データは研究だけでなく教育目的にも利用することが推奨されている。そこで、2010年より高校や公開天文台・科学館の太陽観測と共同観測を行う観測提案を行い、実施してきた。この共同観測を行うことで、日頃太陽観測をしている高校生たちが、ひのでの観測データに関心を持ち、自分たちの太陽観測データと比較することを奨励する。また、学校教員の教材開発や、公開天文台・科学館での展示の活用も目指している。

この観測提案は EPO campaign observation mainly for high school students(HOP173) として採択された。教育目的の観測提案はひので初であり、海外の研究者からもその動向が注目されている。

これまで、2010年9月1日から6日、12月14日から20日に実施している。観測対象は黒点(活動領域)、プロミネンス、太陽全面像(X線)である。共同観測した大阪府立岸和田高校は自らの黒点スケッチと太陽全面像(X線)として、黒点と活動領域の関係を調べた。滋賀県立米原高校は、CaK、H α 、X線で観測した活動領域を比較して、フレア発生との関係を調べている。これらの研究結果は、地学クラブ研究発表会や学生科学賞県展での発表を実現している。また、その後の追跡調査から「ひのでとの共同観測を継続したい」「自分の観測のモチベーションがあがった」との声も出ている。

今年は、7月24日から30日、8月1日から6日の約2週間、ひので衛星との共同観測を予定している。本講演では、この共同観測の結果も報告する。